

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

イラン、ウズベキスタン、中国・新疆ウイグル自治区の地機と杵機と高機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5220

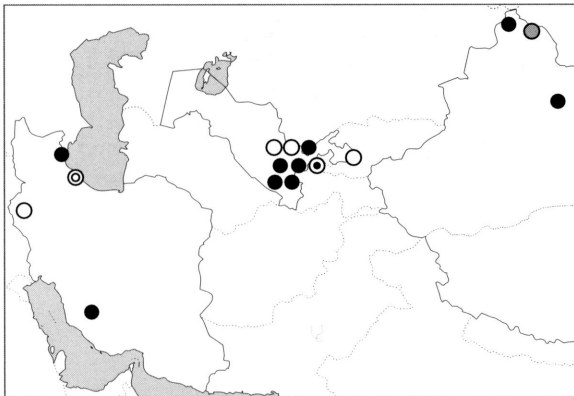


図10 地機の分布
 ○-イラン系民族の汎用機
 ●-テュルク系民族の汎用機
 ●-モンゴル系民族の汎用機
 ◎-イラン系民族の特殊織物専用機
 ◎-テュルク系民族の特殊織物専用機

は、汎用的な14例の地機と特殊織物専用機としての2例の地機を区別して論述する。

まず、汎用的な地機の構造・機能論的な視点からの型式分類では、14例の地機は、経糸保持具の保持方式が固定式であることと、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型であることでは共通していることから、経糸保持具の構成型式、整経方式、開口具の設置方式、綜統固定具の違いが重要である。前節で述べているように、経糸保持具の構成型式は、杭型、杭・横木型（杭・紐型）、横木型（紐型）の3種類に分類しているが、杭型は、さきの細紐を織るための専用の地機【UGF-2】に認められる構成型式である。したがって、経糸保持具の構成型式は、杭・横木型（杭・紐型）と横木型（紐型）の2型式となる。また、整経方式については、平整経式、輪状整経式、擬似輪状整経式の3種類がある。そして、開口具の設置方式については、綜統固定・開口保持棒可動式、綜統固定・開口保持板可動式、綜統・開口保持棒可動式の3種類の方式があるが、綜統・開口保持棒可動式は、さきの細紐を織るための専用の地機【UGF-2】にのみ認められる方式であり、この方式を除く2方式が汎用的な地機の開口具の設置方式である。さらに、綜統固定具については、逆Y字形を呈して綜統を下から支えて固定しているもの、石、木片、缶などを利用して綜統を下から支えて固定しているもの、三脚を使用して綜統を上から吊るして固定しているもの、弓状の棒に綜統を紐で吊り下げ

て固定しているものなどの違いがある。

したがって、以上のような違いから、汎用的な地機については、7種類の型式に分類される。それらを以下では、便宜的にG1BYF型、G1BYC型、G1BTC型、G1BUJ型、G1STJ型、G2SBF型、G2SYJ型とする。また、さきの特殊織物専用の地機については、同様にG2XXF型、GXSFF型とし、以下には、これらの型式について、個別に基本構造の要点と分布を記す¹⁶⁾。なお、分布については、該当する地機の国別の使用地域、および、民族グループごとの使用民族名とコード番号を記す。

<汎用的な地機の型式と分布>

① G1BYF型

このG1BYF型の地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具が杭（経糸保持棒）、後部経糸保持具が横木（経糸保持棒）、あるいは、紐（経糸保持紐）で構成されていること、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持板可動式であること、綜統を逆Y字形の綜統固定具によって下から支えて固定していること、整経方式が平整経式であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図11)

地域：ウズベキスタン



図11 G1BYF型地機（汎用機）の分布
 ○-イラン系民族

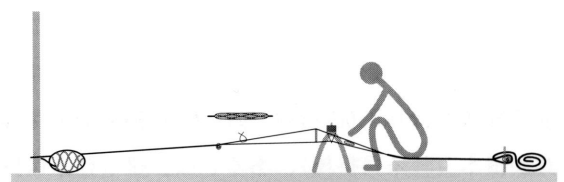


図12 G1BYF型地機（汎用機）

民族：イラン系

タジク人【UGF-1】(図12)

② G1BYC型

このG1BYC型の地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具が杭（経糸保持棒）、後部経糸保持具が横木（経糸保持棒）、あるいは、紐（経糸保持紐）で構成されていること、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持板可動式であること、綜統を逆Y字形の綜統固定具によって下から支えて固定していること、整経方式が輪状整経式であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図13)

地域：ウズベキスタン

民族：イラン系

タジク人【UGC-4】【UGC-5】

：テュルク系

ウズベク人【UGC-1】、ガフ人【UGC-6】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】(図14)

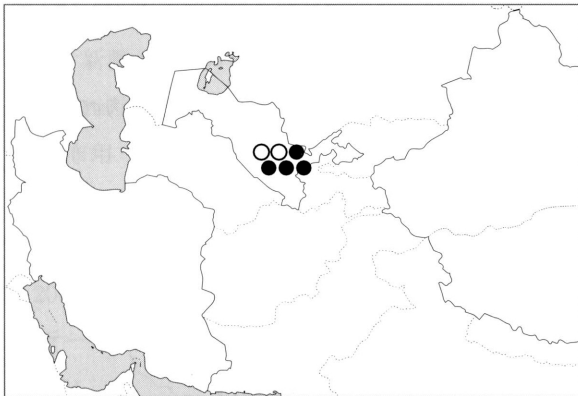


図13 G1BYC型地機（汎用機）の分布
○-イラン系民族，●-テュルク系民族

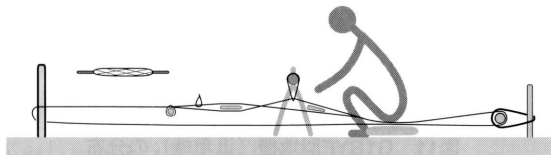


図14 G1BYF型地機（汎用機）

③ G1BTC型

このG1BTC型の地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具が杭（経糸保持棒）、後部経糸保持具が横木（経糸保持棒）、あるいは、紐（経糸保持紐）で構成されていること、開口具の設置方式が綜

統固定・開口保持板可動式であること、綜統を三脚の上から吊りして固定していること、整経方式が輪状整経式であることが特徴となっている。

また、分布については、下記のとおりである。

(図15)

地域：中国・新疆ウイグル自治区

民族：テュルク系

ガフ人（遊牧民）【XGC-2】

：モンゴル系

モンゴル人（遊牧民）【XGC-1】(図16)



図15 G1BTC型地機（汎用機）の分布
●-テュルク系民族，●-モンゴル系民族

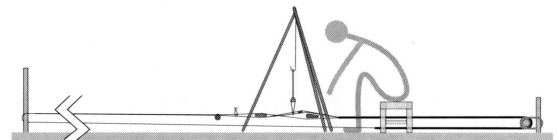


図16 G1BTC型地機（汎用機）

④ G1BUJ型

このG1BUJ型の地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具が杭（経糸保持棒）、後部経糸保持具が横木（経糸保持棒）、あるいは、紐（経糸保持紐）で構成されていること、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持板可動式であること、綜統を弓状の棒に紐で吊り下げて固定していること、整経方式が擬似輪状整経式であることが特徴となっている。

また、分布については、下記のとおりである。

(図17)

地域：ウズベキスタン

民族：テュルク系

ウズベク人【UGJ-1】(図18)

⑤ G1STJ型

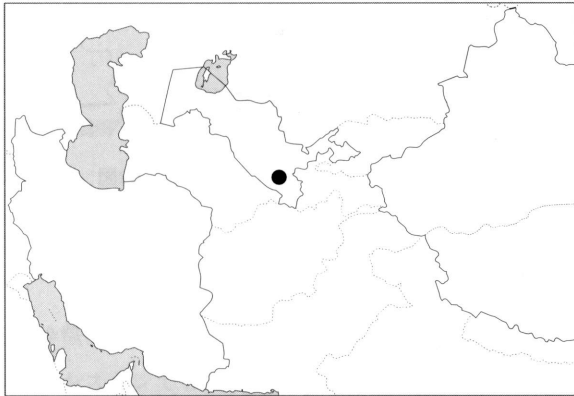


図17 G1BUJ型地機（汎用機）の分布
●-テュルク系民族



図19 G1STJ型地機（汎用機）の分布
○-イラン系民族

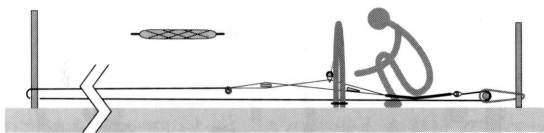


図18 G1BUJ型地機（汎用機）

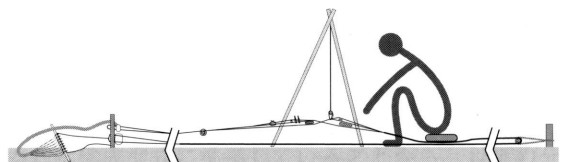


図20 G1STJ型地機（汎用機）

このG1STJ型の地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具が杭（経糸保持棒）、後部経糸保持具が横木（経糸保持棒）、あるいは、紐（経糸保持紐）で構成されていること、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持棒可動式であること、綜統を三脚の上から吊るして固定していること、整経方式が擬似輪状整経式であることが特徴となっている。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 19)

地域：イラン

民族：テュルク系

アゼルバイジャン人【IGJ-1】(図 20)

⑥ G2SBF型

このG2SBF型の地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具と後部経糸保持具がともに横木（経糸保持棒）、あるいは、紐（経糸保持紐）で構成されていること、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持棒可動式であること、綜統を、石、木片、缶などを利用して下から支えて固定していること、整経方式が平整経式であることが特徴となっている。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 21)

地域：イラン

民族：イラン系



図21 G2SBF型地機（汎用機）の分布
○-イラン系民族, ●-テュルク系民族

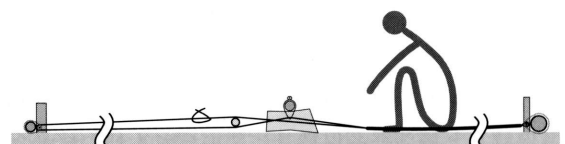


図22 G2SBF型地機（汎用機）

クルド人（遊牧民）【IGF-1】(図 22)

：テュルク系

ガムカイ人（遊牧民）【IGF-2】

⑦ G2SYJ型

このG2SYJ型の地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具と後部経糸保持具がともに横木（経糸保持棒）、あるいは、紐（経糸保持紐）で構成されていること、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持棒可動式であること、綜統を逆Y字形の綜統固定

具によって下から支えて固定していること、整経方式が擬似輪状整経式であることが特徴となっている。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 23)

地域：中国・新疆ウイグル自治区

民族：テュルク系

ウイグル人【XGJ-1】(図 24)

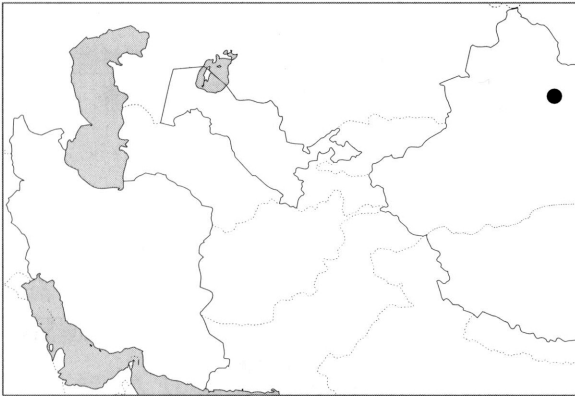


図23 G2SYJ型地機(汎用機)の分布
●-テュルク系民族

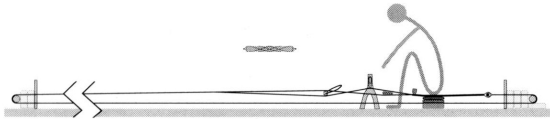


図24 G2SYJ型地機(汎用機)

<特殊織物専用の地機の型式と分布>

以下の2種類の地機の型式では、経糸の保持方式が固定式で、整経方式が平整経式であることについては共通している。

① G2XXF型

このG2XXF型の地機は、むしろ織り専用の地機である。この地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具と後部経糸保持具に、いずれも紐(経糸保持紐)を使用していること、開口具の基本構成型式が無綜統型、すなわち、開口具がそなわっていないこと、緯打具として、経糸を通す穴が1列にあいた板状緯打具を使用していることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 25)

地域：イラン

民族：イラン系

ギーラン人【IGF-3】(図 26)

② GXSFF型

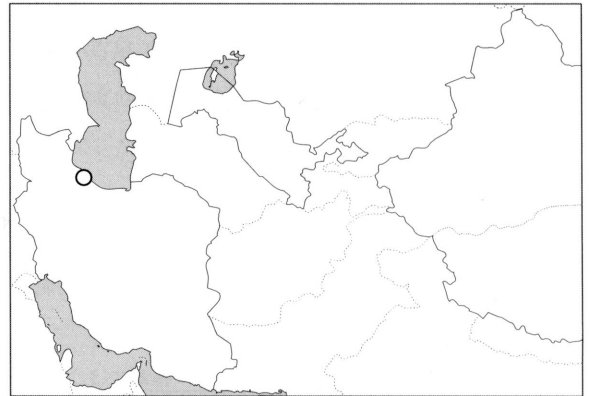


図25 G2XXF型地機(特殊織物専用機)の分布
○-イラン系民族

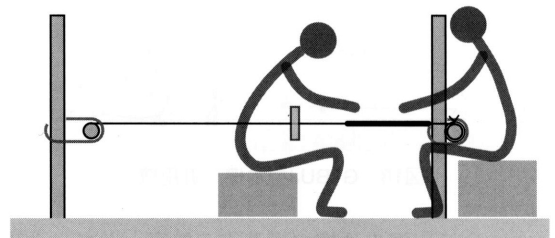


図26 G2XXF型地機(特殊織物専用機)

このGXSFF型の地機は、細紐専用の地機である。この地機の構造上の特徴としては、前部経糸保持具と後部経糸保持具に、いずれも杭(経糸保持棒)を使用していること、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型、開口具の設置方式が綜統・開口保持具可動式、開口具の操作方式が綜統・開口保持具手動式であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 27)

地域：ウズベキスタン

民族：テュルク系

ウズベク人【UGF-2】(図 28)



図27 GXSFF型地機(特殊織物専用機)の分布
●-テュルク系民族

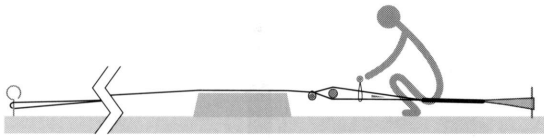


図28 GXSFF型地機（特殊織物専用機）

2 枠機の型式と分布

枠機については、地域的には、イランで19例、ウズベキスタンで8例、中国・新疆ウイグル自治区で3例の調査をおこなった。これらの事例の民族的な区分では、イラン系の民族が14例、テュルク系の民族が16例となる（図 29）。以上、総計30例の枠機のうち、29例は、カーペットを織るための枠機であった。また、残る1例は、綴織でショルダーバッグ用の布地を織っていたが、この枠機も本来はカーペット用の枠機を転用していたものである。したがって、枠機は、基本的にはカーペット専用の織機として位置づけられる。

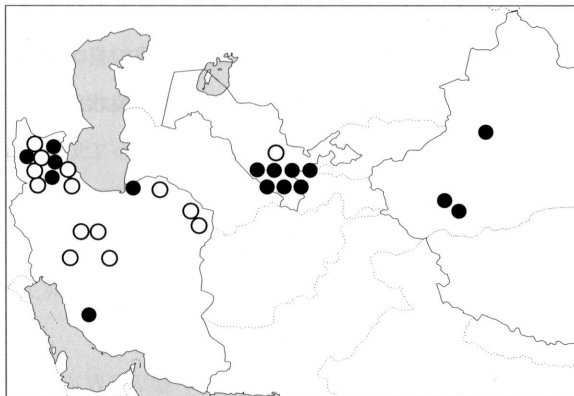


図29 枠機の分布
○-イラン系民族の枠機
●-テュルク系民族の枠機

これらの枠機は、経糸の保持方式が固定式であることで共通している。したがって、構造・機能論的な視点からの型式分類では、機枠の設置方式、経糸保持具の構成型式、整経方式、開口具の基本構成型式と設置方式、および、開口具の基本構成型式が無綜統型であるばあいの外観が輪状綜統と共通する経糸整列具の有無が重要である。これらのうち、機枠の設置方式については、すでに述べているように、水平式と垂直式と傾斜式の3方式がある。ただし、垂直式と傾斜式は、機枠が自立しているか、立てかけてあるかという違いがあるのみで、織り手が機を

織るときの姿勢や、機枠が占有するスペースについては、ほとんど違いは認められない。したがって、以下の型式分類では、機枠の設置方式については、便宜的に垂直式と傾斜式を一括して、垂直・傾斜式とする。また、経糸保持具の構成型式には、機枠の2本の棒を経糸保持棒とした構成型式、機枠の2本の棒を経巻き棒と布巻き棒とした構成型式、機枠の1本の棒と機枠以外の1本の棒を経糸保持棒とした構成型式の3型式がある。ただし、これらの型式は、経糸保持具の機能に注目したばあい、2本の経糸保持棒による構成型式と、経巻き棒と布巻き棒による構成型式の2型式となる。したがって、以下の型式分類では、便宜的にこの2型式によって分類をおこなう。そしてさらに、開口具の設置方式は、開口具の基本構成型式に準拠していることから、以下の分類では、開口具の設置方式については、開口具の基本構成型式のうちに包括する。なお、開口具の基本構成型式が無綜統型のばあいには、外観が単式輪状綜統型でありながら、単式輪状綜統型の輪状綜統が、綜統としてではなく、経糸整列具として機能している例がある。このことは、機枠の構造・機能論的な分類では、きわめて重要であるため、以下の分類では、こうした例については、他の無綜統型とは区別する。

以上のような分類項目にもとづいて、機枠の型式分類をおこなうと、機枠は11種類の型式に分類される。それらの型式を以下では、便宜的に、FHFFX型、FHFFS型、FVFFZ型、FVFFS型、FVWFW型、FVFCX型、FVFCZ型、FVFCFS型、FVFJZ型、FVFJS型、FVFJW型とし¹⁷⁾、以下には、これら11種類の機枠の型式について、個別に基本構造の要点と分布を記す。なお、分布については、該当する機枠の国別の使用地域、および、民族グループごとの使用民族名とコード番号を記す。

① FHFFX型

このFHFFX型の機枠の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が水平式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が平整経式であること、開口具の基本構成型式が無綜統型であること、外観が輪状綜統と共通す

る輪状綜統型経糸整列具がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 30)

地域：ウズベキスタン

民族：テュルク系

ウズベク人【UFF-3】(図 31)【UFF-4】、トルクメン人【UFF-1】

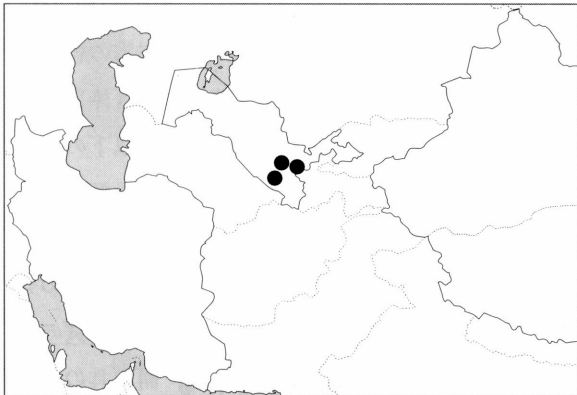


図30 FHFFX型枠機の分布
●-テュルク系民族

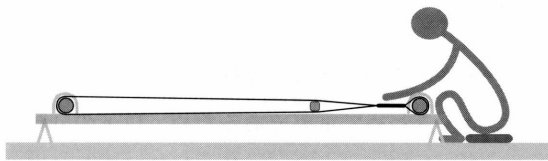


図31 FHFFX型枠機

② FHFFS型

このFHFFS型の枠機の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が水平式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が平整経式であること、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 32)

地域：イラン、ウズベキスタン

民族：イラン系

クルド人(遊牧民)【IFF-2】

：テュルク系

カシュガイ人【IFF-1】、トルクメン人【IFF-3】(図 33)

ウズベク人【UFF-2】、ガザフ人【UFF-5】

③ FVFFZ型

このFHFFS型の枠機の構造上の特徴としては、

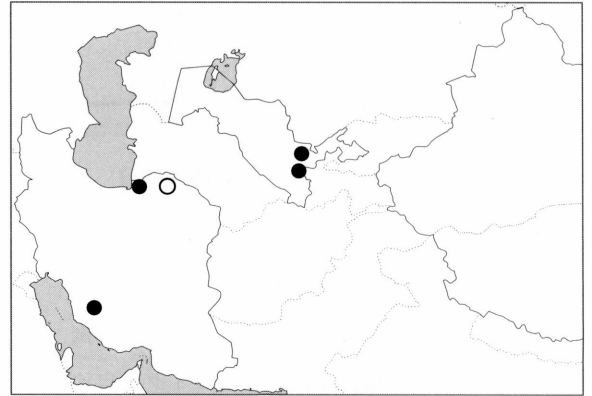


図32 FHFFS型枠機の分布
○-イラン系民族
●-テュルク系民族

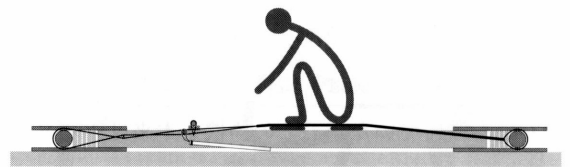


図33 FHFFS型枠機

機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が平整経式であること、開口具の基本構成型式が無綜統型であること、外観が輪状綜統と共通する輪状綜統型経糸整列具がそなわっていることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 34)

地域：イラン

民族：イラン系

ハルシア人【IFF-6】

：テュルク系

アゼルバイジャン人【IFF-4】(図 35)



図34 FVFFZ型枠機の分布
○-イラン系民族、●-テュルク系民族

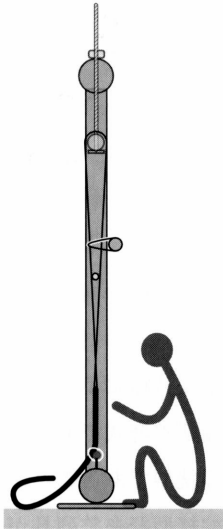


図35 FVFFZ型枠機

④ FVFFS型

このFVFFS型の枠機の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が平整経式であること、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 36)

地域：イラン

民族：イラン系

ペルシア人【IFF-5】(図 37)

⑤ FVWFW型

このFVWFW型の枠機の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が布巻き棒と経巻き棒で構成されていること、整経方式が平整経式であること、開口具の基本構成型式が複合単式輪状綜統型であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 38)

地域：イラン

民族：イラン系

ペルシア人【IFF-7】(図 39)【IFF-8】

⑥ FVFCX型

このFVFCX型の枠機の構造上の特徴としては、



図36 FVFFS型枠機の分布
○-イラン系民族

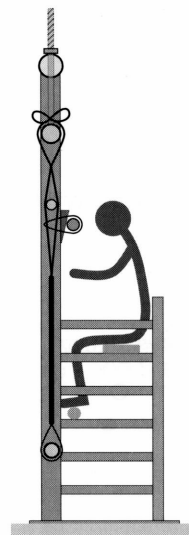


図37 FVFFS型枠機

機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が輪状整経式であること、開口具の基本構成型式が無綜統型であること、外観が輪状綜統と共通する輪状綜統型経糸整列具がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

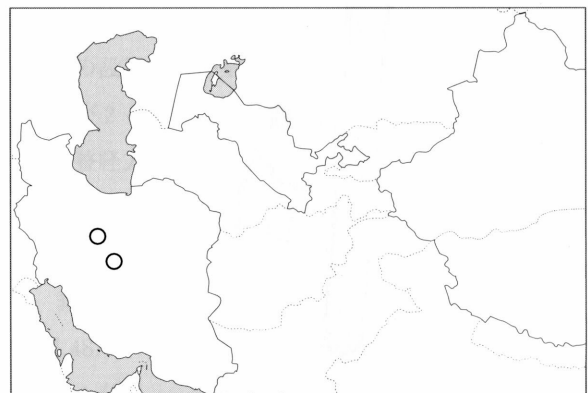


図38 FVWFW型枠機の分布
○-イラン系民族

(図 40)

地域：イラン、ウズベキスタン

民族：イラン系

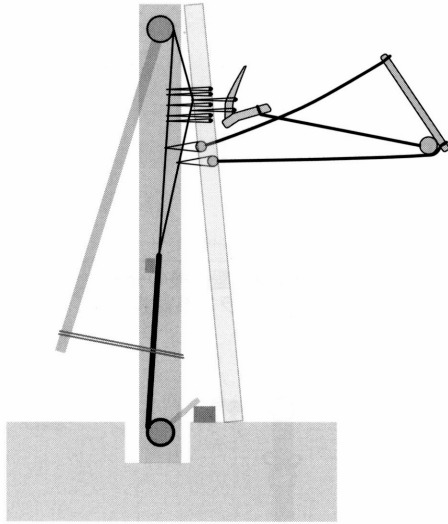


図39 FVFWW型枠機

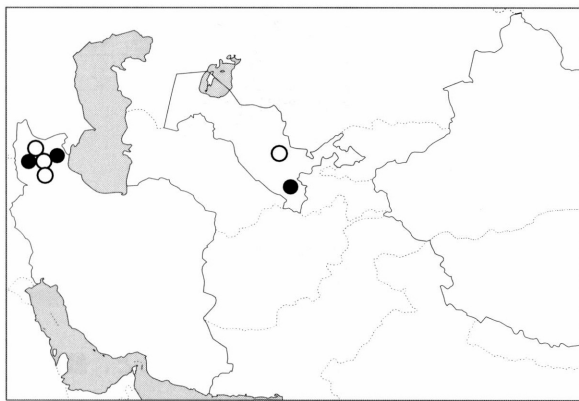


図40 FVFCX型枠機の分布
○ - イラン系民族, ● - テュルク系民族

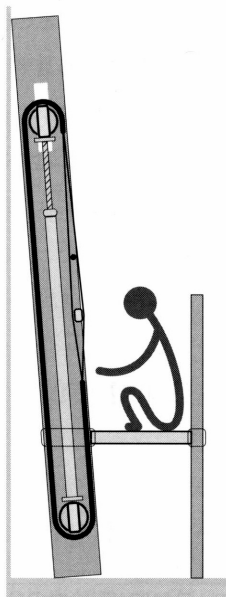


図41 FVFCX型枠機

ペルシア人【IFC-3】【IFC-4】、クルド人【IFC-9】

(図 41)、タジク人【UFC-2】

：テュルク系

アゼルバイジャン人【IFC-2】【IFC-5】、ウズベク人【UFC-1】

⑦ FVFCZ型

このFVFCZ型の枠機の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が輪状整経式であること、開口具の基本構成型式が無綜統型であること、外観が輪状綜統と共通する輪状綜統型経糸整列具がそなわっていることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 42)

地域：イラン

民族：イラン系

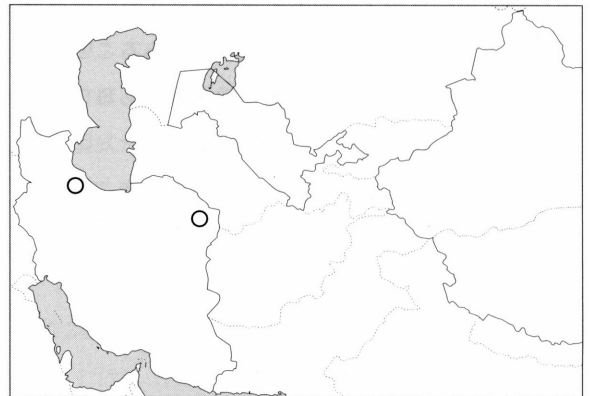


図42 FVFCZ型枠機の分布
○ - イラン系民族

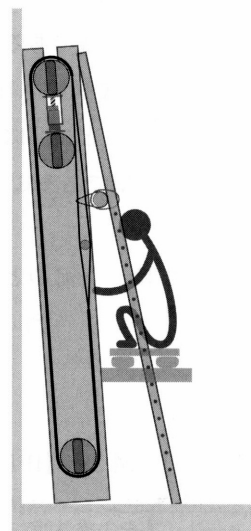


図43 FVFCZ型枠機

パルシア人【IFC-7】(図43)、ロル人【IFC-8】

⑧ FVFC型

このFVFC型の枠機の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が輪状整経式であること、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図44)

地域：イラン、ウズベキスタン

民族：イラン系

列シ人【IFC-1】

：テュルク系

トルクメン人【IFC-6】、ウズベク人【UFC-3】(図

45)



図44 FVFC型枠機の分布
○-イラン系民族, ●-テュルク系民族

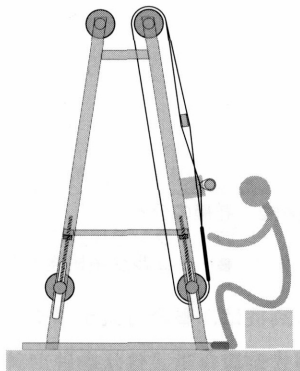


図45 FVFC型枠機

⑨ FVFJZ型

このFVFJZ型の枠機の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されているこ

と、整経方式が擬似輪状整経式であること、開口具の基本構成型式が無綜統型であること、外観が輪状綜統と共通する輪状綜統型経糸整列具がそなわっていることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図46)

地域：イラン

民族：イラン系

バフアリ人【IFJ-2】(図47)

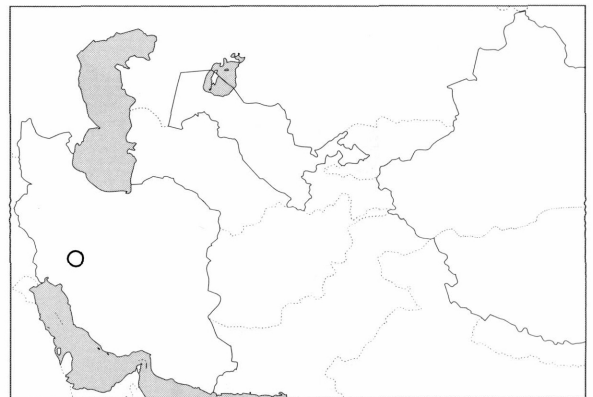


図46 FVFJZ型枠機の分布
○-イラン系民族

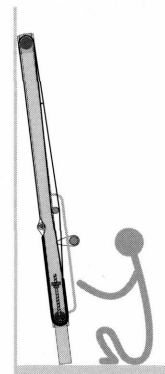


図47 FVFJZ型枠機

⑩ FVFJS型

このFVFJS型の枠機の構造上の特徴としては、機枠の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が擬似輪状整経式であること、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図48)

地域：イラン

民族：イラン系

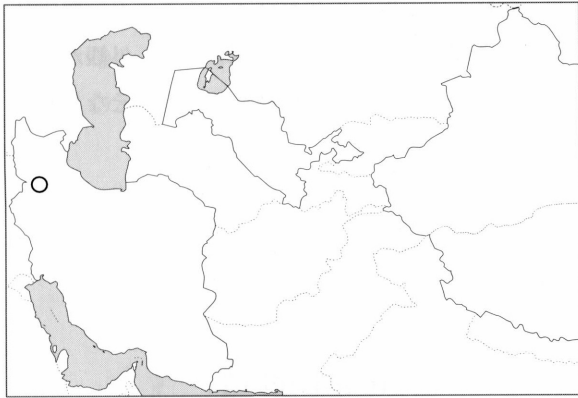


図48 FVFJS型柶機の分布
○ - イラン系民族

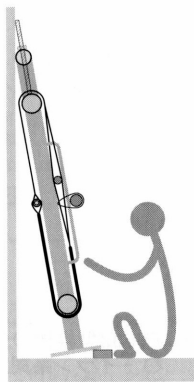


図49 FVFJS型柶機

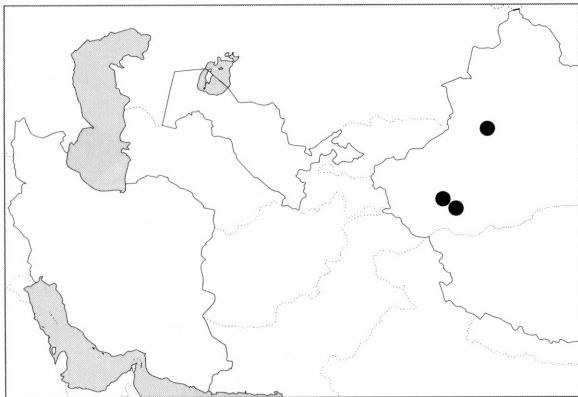


図50 FVFJW型柶機の分布
● - テュルク系民族

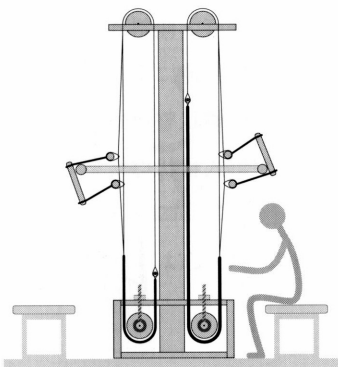


図51 FVFJW型柶機

ウイグル人【IFJ-1】(図49)

① FVFJW型

このFVFJW型の柶機の構造上の特徴としては、機柶の設置方式が垂直・傾斜式であること、経糸保持具が2本の経糸保持棒によって構成されていること、整経方式が擬似輪状整経式であること、開口具の基本構成型式が複合単式輪状綜統型であることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。(図50)

地域：中国・新疆ウイグル自治区：

民族：テュルク系

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】(図51)【XFJ-3】

3 高機の型式と分布

高機については、地域的には、イランで8例、ウズベキスタンで6例、中国・新疆ウイグル自治区で5例の調査をおこなった。これらの事例の民族的な区分では、イラン系の民族が8例、テュルク系の民族が11例となる(図52)。以上、総計19例の高機は、いずれも汎用機として位置づけられるもので、織られていた織物の種類も多岐にわたっていた。

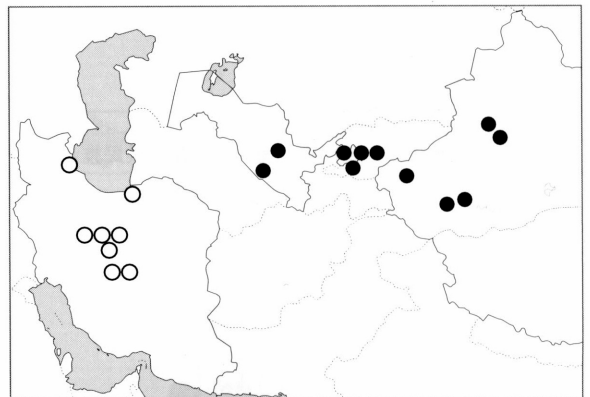


図52 高機の分布
○ - イラン系民族の高機
● - テュルク系民族の高機

これらの高機は、整経方式が平整経式、開口具の基本構成型式が複合単式輪状綜統型、開口具の設置方式が番目綜統可動式、開口操作方式が足踏み式、であることで共通している。したがって、構造・機能論的な視点からの型式分類では、経糸の保持方式と経糸保持具の構成型式、緯打補助具としての腕木の有無、および、緯入補助具としての飛籽装置の有

無が重要である。すでに述べているように、高機の経糸の保持方式には、固定式と垂下式の2方式があり、経糸保持具の構成型式には、経糸保持棒と布巻き棒による構成型式、経巻き棒と布巻き棒による構成型式、錘りの付属した経糸保持棒と、布巻き棒による構成型式、錘りが付属した経糸保持棒と錘りが付属した布巻き棒による構成型式の4型式がある。また、高機の緯打具である箴には、緯打補助具として腕木をそなえているものと、そなえていないものがある。そしてさらに、緯入具が緯入補助具としての飛杼装置をそなえているばあいと、そなえていないばあいがある。したがって、これらの違いから、高機は8種類の型式の分類される。それらを以下では、便宜的にTF1XX型、TF1AX型、TF2XX型、TW3XX型、TW3AX型、TW3XF型、TW4XF型、TW4AX型とし¹⁸⁾、以下には、これらの高機の型式について、個別に基本構造の要点と分布を記す。なお、分布については、該当する地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

① TF1XX型

このTF1XX型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が固定式であること、経糸を経糸保持棒と布巻き棒に張りわたしていること、緯打補助具としての腕木がそなわっていないこと、緯入補助具としての飛杼装置がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。(図53)

地域：イラン

民族：イラン系

ペルシア人【ITF-8】(図54)

② TF1AX型

このTF1AX型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が固定式であること、経糸を経糸保持棒と布巻き棒に張りわたしていること、緯打補助具として腕木がそなわっていること、緯入補助具としての飛杼装置がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。(図55)

地域：イラン

民族：イラン系

列シ人【ITF-1】(図56)

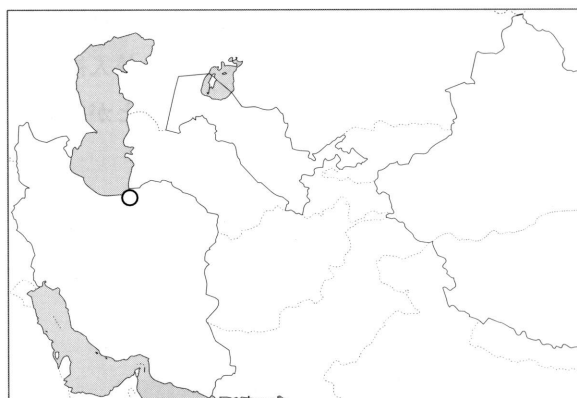


図53 TF1XX型高機の分布
○-イラン系民族

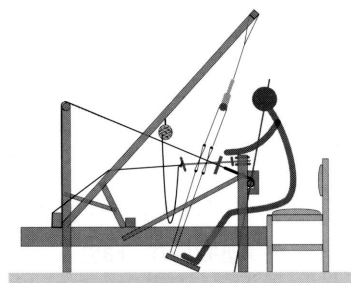


図54 TF1XX型高機



図55 TF1AX型高機の分布
○-イラン系民族

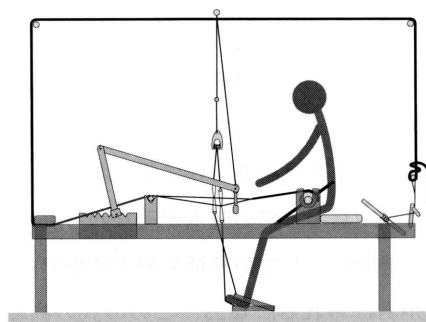


図56 TF1AX型高機

③ TF2XX型

このTF2XX型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が固定式であること、経糸を経巻き棒と布巻き棒に張りわたしていること、緯打補助具としての腕木がそなわっていないこと、緯入補助具としての飛籽装置がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。
(図 57)

地域：イラン

民族：イラン系

ペルシア人【ITF-5】(図 58)

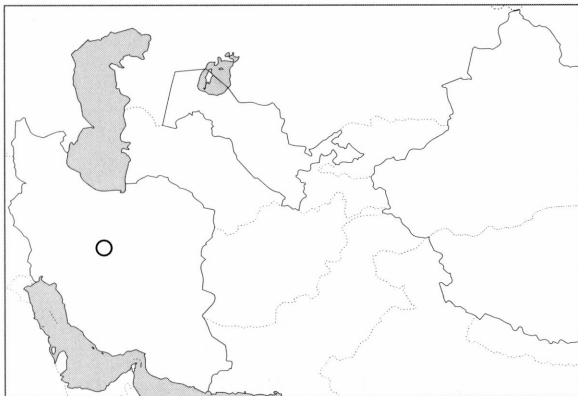


図57 TF2XX型高機の分布
○-イラン系民族

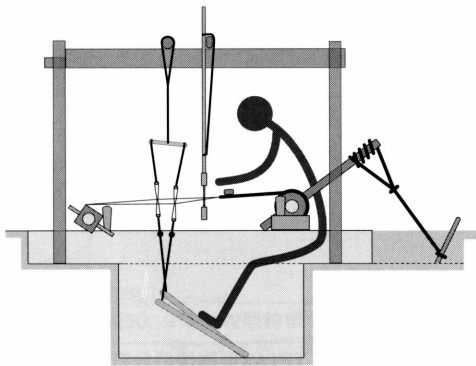


図58 TF2XX型高

④ TW3XX型

このTW3XX型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が垂下式であること、経糸を錘りの付属した経巻き棒と布巻き棒に張りわたしていること、緯打補助具としての腕木がそなわっていないこと、緯入補助具としての飛籽装置がそなわっていないことがあげられる。なお、この型式の高機では、絹を繊維素材とした、ピロード、緯錦、無地の綾織、

格子縞と経緋の併用織物、および、木綿を繊維素材とした二重織の紋織物など、一般に高級織物として位置づけられる織物を織るために使用されていた。

また、分布については、下記のとおりである。
(図 59)

地域：イラン

民族：イラン系

ペルシア人【ITF-2】(図 60)【ITF-3】【ITF-4】
【ITF-6】【ITF-7】

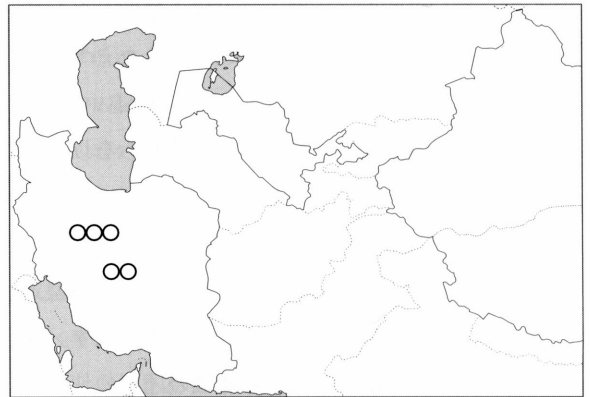


図59 TW3XX型高機の分布
○-イラン系民族

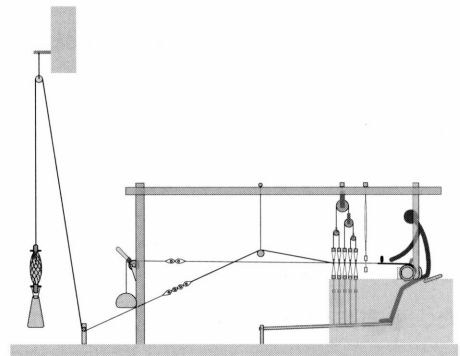


図60 TW3XX型高機

⑤ TW3AX型

このTW3AX型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が垂下式であること、経糸を錘りの付属した経糸保持棒と布巻き棒に張りわたしていること、緯打補助具として腕木がそなわっていること、緯入補助具としての飛籽装置がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。
(図 61)

地域：ウズベキスタン、中国・新疆ウイグル自治区

民族：テュルク系

ウズベク人【UTF-6】、ウイグル人【XTF-1】
【XTF-2】【XTF-3】(図62)【XTF-4】【XTF-5】

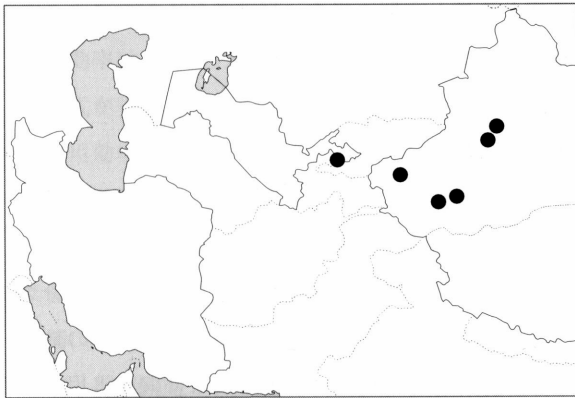


図61 TW3AX型高機の分布
●-テュルク系民族

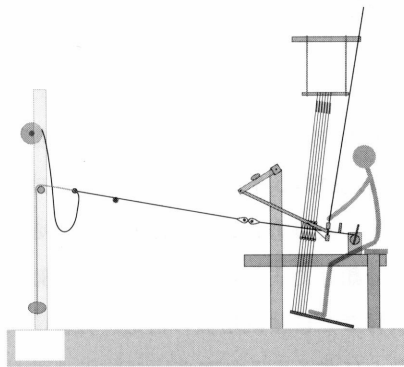


図62 TW3AX型高機

⑥ TW3XF型

このTW3XF型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が垂下式であること、経糸を錘りの付属した経糸保持棒と布巻き棒に張りわたしていること、緯打補助具としての腕木がそなわっていないこと、緯入補助具として飛籽装置がそなわっていることがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。
(図 63)

地域：ウズベキスタン

民族：テュルク系

ウズベク人【UTF-3】【UTF-4】(図 64)
【UTF-5】

⑦ TW4XF型

このTW4XF型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が垂下式であること、経糸を錘りの付属した経糸保持棒と、錘りの付属した布巻き棒に

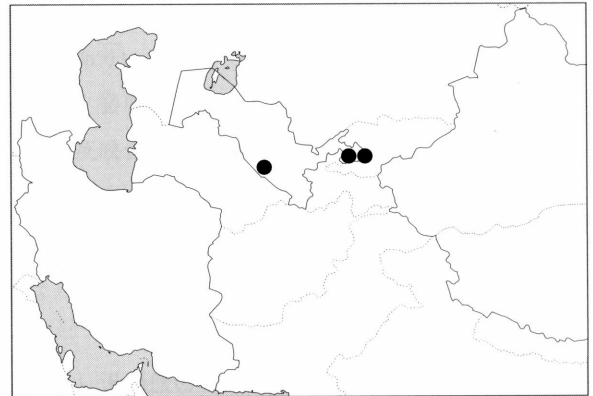


図63 TW3XF型高機の分布
●-テュルク系民族

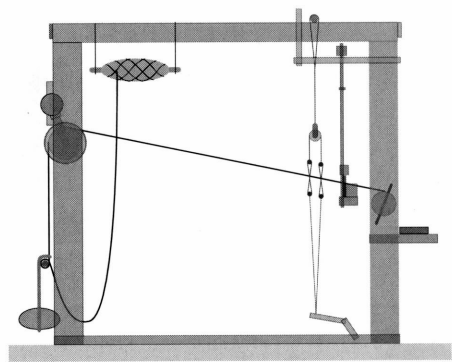


図64 TW3XF型高機

張りわたしていること、緯打補助具としての腕木がそなわっていないこと、緯入補助具としての飛籽装置がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。

(図 65)

地域：ウズベキスタン

民族：テュルク系

ウズベク人【UTF-2】(図 66)

⑧ TW4AX型

このTW4AX型の高機の構造上の特徴としては、経糸の保持方式が垂下式であること、経糸を錘りの付属した経糸保持棒と、錘りの付属した布巻き棒に張りわたしていること、緯打補助具として腕木がそなわっていること、緯入補助具としての飛籽装置がそなわっていないことがあげられる。

また、分布については、下記のとおりである。
(図 67)

地域：ウズベキスタン

民族：テュルク系

ウズベク人【UTF-1】(図 68)

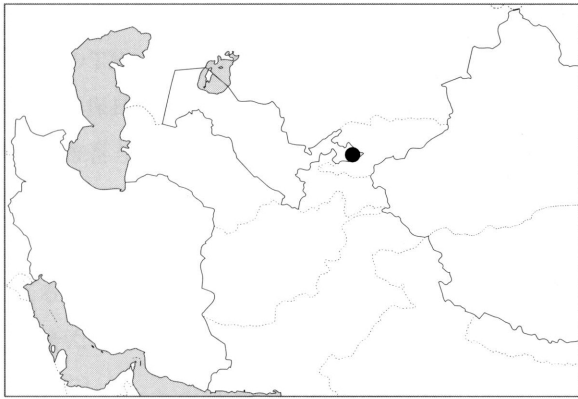


図65 TW4XF型高機の分布
●-テュルク系民族

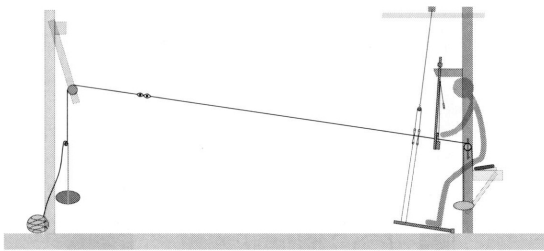


図66 TW4XF型高機



図67 TW4AX型高機の分布
●-テュルク系民族

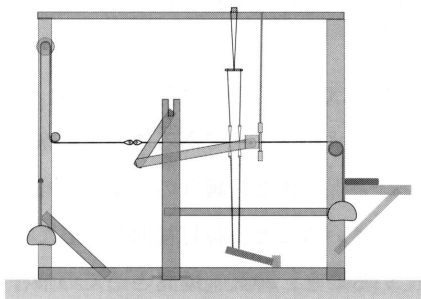


図68 TW4AX型高機

3. 構造・機能論的な傾向

ここでは、前節でおこなった型式分類にもとづき、地機と枠機と高機の構造・機能論的な傾向をあきらかにする。

1 地機

地機は、前節において、汎用機と特殊織物専用機に大別し、調査対象とした14例の汎用機を7種類の型式、2例の特殊織物専用機を2種類の型式に分類した。したがって、以下では、汎用機としての地機の種類項目ごとの構造・機能論的な傾向、汎用機としての地機の型式全般にわたる構造・機能論的な傾向、特殊織物専用機としての地機の構造・機能論的な傾向をあきらかにする。

1) 汎用機の種類項目ごとの構造・機能論的な傾向

汎用的な地機は、経糸保持具の構成型式、整経方式、開口具の設置方式、綜統固定具などの違いにもとづいて分類した。したがって、以下では、これらの種類項目ごとに、汎用機の構造・機能論的な傾向をあきらかにする。

<経糸保持具の構成型式について>

経糸保持具の構成型式には、経糸保持具が杭と横木、あるいは、杭と紐で構成された杭・横木型（杭・紐型）と、経糸保持具が2本の横木、あるいは、2本の紐で構成された横木型（紐型）がある。これらの経糸保持具の構成型式の違いは、織物の長さとも対応していると見られ、杭と横木で構成した型式では、一般に経糸の全長が20mを超えているのに対して、2本の横木で構成されている型式では、経糸の全長は20m以下となっている。このことは、長い織物を織るばあいには、経糸保持具が杭・横木型（杭・紐型）のほうが適していることを反映していると考えられる。

<整経方式について>

整経方式では、平整経式と輪状整経式と擬似輪状整経式の3方式を確認している。地機では、経糸保持具に経巻き機能や布巻き機能がそなわっていないことから、おなじ長さの織物を織るばあいには、平